

令和4年第8回教育委員会会議（定例会）録

1 日時

令和4年4月20日（水）13時15分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教育長：石橋正信

委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：福田教育次長、深堀理事

早川総務課長、平山市民局スポーツ推進部スポーツ推進課長

4 会議事項

(1) 付議事項

なし

(2) 臨時代理報告事項

なし

(3) 協議・報告事項

協議・報告ア 福岡市スポーツ推進計画（案）について

5 開会

教育長開会を宣告 13時15分

6 付議事項

なし

7 臨時代理報告事項

なし

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 福岡市スポーツ推進計画（案）について

平山課長より説明

[質疑等]

(町委員)

○ 推進計画案の5ページ、フロー図について、前回策定した計画の方がもう少し

詳しくはどうか。次に、6ページ、「スポーツ大会の代替大会開催を支援する」とあるがどのようなものか。次に、7ページ、「スポーツを『する』活動を週1回以上行っている市民の割合」について、女性の「18～19歳」の枠が77パーセントと突出している理由はなにか。次に、15ページ、「体育の授業を楽しいと思う割合」について、「楽しくない」と回答した割合が小学校5年生で増えており、中学校2年生では「楽しくない」と回答した割合が減っている。この点については教育委員会の指導部と協議していきたい。次に、47ページ、「9 運動・スポーツの実施の程度」について、「職業として日常的にスポーツを行っている」者の割合が男女とも1.5パーセント前後あるが、福岡市の人口からすると1万3,000人ほどになりかなりの数になる。これは体育教師、消防士、自衛隊など日常的に体を動かしている方も含まれるのか。最後に、51ページ、「15 体力・運動能力」について、19歳の統計があるが、一般的にみられないものである。これは、大学の教育課程などのデータによるものか。

(平山課長)

- 5ページについて、国のスポーツ基本計画を踏まえて策定していく中で、本市を取り巻く環境の変化などを踏まえ、スポーツの持つ価値、スポーツが地域活性化や健康増進など社会にもたらす付随的な価値があることを踏まえ、「する」、「みる」、「ささえる」の視点から推進するということを概念的にとらえるためにまとめている。前回から国の考え方も変わっており、スポーツ基本法が施行される中で、競技スポーツだけではなく、健康づくりなどを含めた幅広い施策を行うといった方向性や、スポーツそのものが持つ価値だけでなく、スポーツが社会にもたらす価値といった点もピックアップしているといったことを踏まえて整理している。現時点ではこのようなかたちで概念図を作成しているが、ご意見を踏まえて、対市民向けの広報についてはより分かりやすく発信できる工夫を考えたい。次に、6ページについて、令和2年度の取組みであるが、新型コロナウイルス感染症の影響で、緊急事態宣言下では、中体連をはじめとする子どものスポーツ大会の多くが中止となる中で、宣言解除後の夏場以降で、代替となるスポーツ大会をしたいという声があり、練習の成果を披露する場として大会を開催する場合には、助成することとして特別の助成制度を設けた。合計で59件の申請をいただき、代替大会として支援した。次に、7ページについて、この指標の出典である「基本計画の成果指標に関する意識調査」は、回答の母数が2,000程度であり、年代別に分解すると、回答母数が少ない年代は傾向が極端に出る場合がある。他の年代が10歳幅であるのに対して、「18～19歳」は2歳幅であり、実情というよりは母数の少なさという点が影響していると考えられる。次に、15ページについて、小学校5年生は「あまり楽しくない」、「楽しくない」と回答した割合が増えている。はっきりと分析できていないが、コロナ下において、体育の授業を感染対策に気を付けながら実施したことも影響していると考えている。引き続き教

育委員会と連携して把握に努め、楽しいと思ってもらえるような取組みを進めていきたい。次に、47ページについて、平成30年度にインターネットを通じて意識調査を行ったもので、これ以上細かい内容を調査していないため把握していないが、体育教師、スポーツジムの職員といったスポーツ関係に従事している方などもこの「職業として日常的にスポーツを行っている」の項目で回答していただいたものと思う。選手、競技者以外についても、関連の産業に従事している方も含まれていると認識している。最後に、51ページについて、スポーツ庁で実施した統計を転用しているため、詳細は把握していない。

(徳成委員)

- 資料編のデータが平成30年度のものが多く、コロナ禍以降の状況が変わっていることは考慮しなければならない。49ページ、「13 今後スポーツを開始、継続するためにあるとよいと思うもの」について、専門的なスポーツの分野よりも、気軽にいろいろな活動に参加したいという意識がはっきり出ている。以前読んだ本にもあったが、ヨーロッパから競技型のスポーツをゲーム化した、より多くの市民が参加できるようなスポーツが日本にも入ってきている。障がい者も含めて年齢や経験を問わず、いろいろな方が参加できるスポーツがこれからさらに普及していった方がよいと思う。コロナ禍において、小中学生や大人も運動量が少なくなってきたという反面、ゴルフ、キャンプなどは大盛況でたくさんの方が楽しんでいる状況にあるようだ。社会の現状をしっかりと捉えながら、こういったスポーツに親しむ環境を作っていくのが大事なのかということのを是非、市として考えていったほうがよい。

(平山課長)

- ご指摘のとおり、競技性のあるものだけでなく、ウォーキング、ランニングといったより身近で気軽に始められるスポーツについても意向が高まっている。これを踏まえ、本市としても、ウォーキングコースや、公園に健康器具を設置するなど、お一人でも身近にできるような工夫などを行っていきたいと考えている。

(原委員)

- 新型コロナウイルス感染症の関係で、ワクチン接種会場として使用されるなど、体育館や公民館の使用が制限されている。仕方がないことだとは思いますが、特に、高齢者は日常的に運動する場、社交の場として利用される方がおられて、それがかなり制限されているという声をよくお聞きするので、代替手段、体育館や公民館が利用できるようにするなど、今後、バランスをとっていただければと思う。

(平山課長)

- 本市においても、多くの体育館がワクチン接種会場として使用されており、また、これまでの2年間の中で、感染状況を踏まえた休館、営業時間の短縮といった取組みをしてきた。今後については、感染対策と社会活動のバランスを取りながら、できる限り、ウィズコロナ、ポストコロナの観点で、コロナ下にあっても

できる活動はしていただくという考えで取り組んでいく必要があると認識している。これまでの経験を踏まえて、できるだけ活動できるようなかたちで取り組んでいきたいと考えている。

(武部委員)

- 近隣の自治体では、大学と連携して、小学校などで継続的に体づくりをされている。スポーツ推進計画でまとめていただいている内容とはずれがあるかもしれないが、全体の意識向上というか、保護者も興味を持たれると思うので、そういった方法があっても良いと思うが、福岡市はこれまで大学と学校で連携して取り組んだことはあるか。

(平山課長)

- 大学との連携については、個別には、福岡大学が近くの校区において、公民館の事業として連携していただいたり、大学の施設内でイベントを実施したりといったことはあるが、全市的な広がりには至っていない。我々としても、大学との連携は重要と考えており、今回の計画においても、大学との連携推進をポイントと考えているので、いろいろな施設を使わせていただくハード面から、いろいろなイベントや取組みを一緒にさせていただくなど、特に、福岡大学にはスポーツ科学部があるので、そういった知見なども借りながら行っていけるようなかたちで、様々な観点から連携を進めていきたいと考えている。

(西村委員)

- 32ページ、「施策1-2 子どものスポーツの推進」、「④継続的なスポーツ実施の促進」について、「子どものスポーツ活動に対する理解促進や意欲喚起につながるよう、保護者などに対する周知・啓発に取り組みます」とあるが、過去に取り組まれたことやこれから計画していることがあればお示しいただきたい。また、保護者だけでなく、クラブチームなどの指導者への周知・啓発にも取り組まれていればお示しいただきたい。

(平山課長)

- 保護者については、これまでも親子参加型のイベントなどは開催してきたが、子どもがスポーツを始めたり習慣化したりする上で、保護者の認識は大変重要だと思っている。これまでは、子どもにスポーツをさせるという際に、保護者に特化した情報発信は行っていなかったが、今後は、保護者をターゲットにスポーツをすることの効果などの情報の発信を強化していくことを検討したい。また、指導者に対しては、これまでも指導力の向上、安全・安心の向上といった観点から、福岡市スポーツ協会と連携しながら、指導者向けの研修や講習会などを実施している。安全にスポーツをすることができる環境を作ることは重要と考えているので、引き続き、指導者の育成などには力を入れていきたい。

(町委員)

- 前回のスポーツ推進計画は、2010年から2019年までの期間であったと思うが、

今回2022年から策定するのは、新型コロナウイルス感染症の事情があって策定が遅れたものなのか、それとも、途中で臨時の計画を出したことによるものか。

(平山課長)

- 策定期間については、新型コロナウイルス感染症、オリンピック・パラリンピックの延長などがあつた中で、直近の状況を反映しようと思つた際に、方向性を示すことが難しい状況にあつたため、スポーツ推進審議会のご意見も頂戴しながら、時期を見直したところである。

9 閉会

教育長閉会を宣告 13時49分